

【問合せ】 市民図書館歴史資料室

(☎ 017-8732-5271)

西部地区の発展と変わる街並み

青森市は昭和26年(1951)に滝内村と合併して西に市域を拡大しますが、それ以前にも滝内村の一部を編入していました。今回は昭和2年に青森市へと編入された滝内村大字沖館・新田を中心に、西部地区の歴史を紹介します。

大林区署の移転による変化

沖館は明治38年(1905)に林野行政を司る青森大林区署(大正13年へ1924)に青森営林局と改称、現東北森林管理局青森事務所)によって青森貯木場(現市役所柳川庁舎付近)が整備されて以降、林業に関わる施設が集まり、発展してきました。青森大林区署は、翌明治39年には日本初の官営製材所である青森製材所(青森貯木場隣)の操業を開始し、また、沖館を起点とする津軽森林鉄道の建設に着手しました。

この頃、青森大林区署の庁舎は浦町(現青森商工会議所付近)にありました

鉄道敷設と「松前街道」

明治24年(1891)、青森―東京間の鉄道が開通し、安方町に青森駅が建設されました(現在の駅舎よりやや北側)。この時、沖館から新町通りへ通じていた「松前街道」を横切って線路が敷かれましたが、駅構内に踏切を設けたため、「松前街道」を通って駅の東西を行き来することができました。明治39年に駅舎が南(現在の位置)へ移ると踏切も南へ移設され、「松前街道」の利用者はこの踏切を通るようになりました【地図①―C】。

しかし、明治42年、踏切の南方に新しい機関庫が完成すると、機関庫を出入りする列車が頻繁に往来するようになり、踏切は危険な場所になってしまいました。そこで、機関庫より南方にある踏切【地図②―D、E】を通るよう、先に述べた大林区署前の道(現国道280号)【地図①―B】と国道41号(現国道7号)を繋ぐ新道【地図②―F】を建設することにしました。

新道は明治45年に開通しましたが、従来の道と比べると大幅に迂回しなければならず、地域住民からは跨線橋の建設を求め声が挙がりました。そうした声を受け、大正6年(1917)に現在のあすなろ橋付近に跨線橋が整備されました。さらに、大正15年には古川跨線橋が開通し、青森市の中心街と西部地区を結ぶ主要な道路として大きな役割を果たしています。

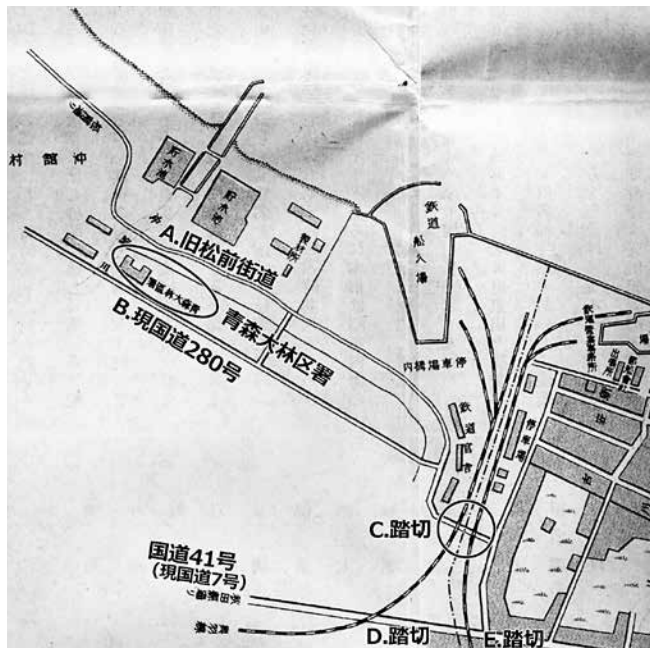
新田にあった青森球場

戦前、青森市民が利用した主な野球場としては、大正13年(1924)に建設された浜館村の佃野球場と昭和8年(1933)に建設された新田の青森球場(現東北森林管理局新田宿舍付近)がありました。青森球場は青森市の都市振興上必要な施設を整備するために組織された「青森都市振興会」が建設を計画したもので、佃野球場より少し狭いものの、観客1千500人を収容できる規模でした。「青森都市振興会」の会長は青森営林局の様葉可省局長でした。様葉は昭和5

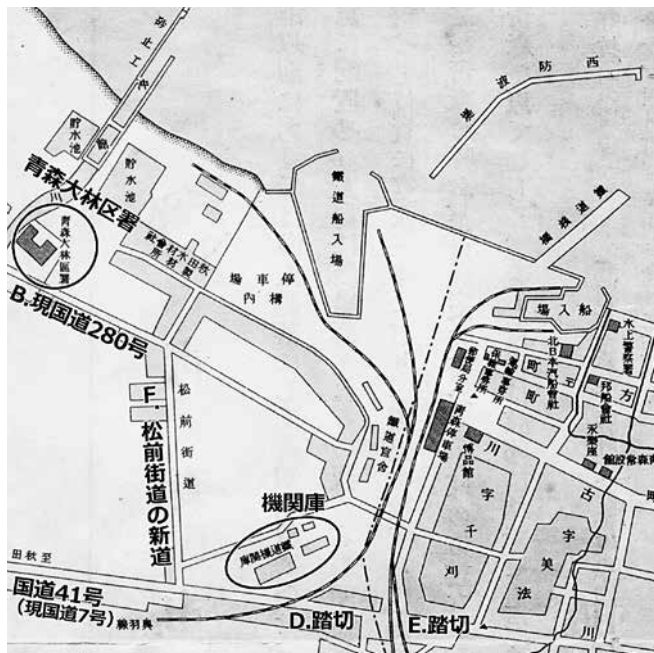


写真① 青森球場で行われた沖館尋常小学校の運動会(昭和戦前 『記念誌おきだて』より転載)

トピックス
お知らせ
健康元気
元気まち
情報広場
タイムトラベル



地図① 新道開通前の沖館（明治45年発行「青森市全図」に加筆 『新青森市史』資料編7付図）



地図② 新道開通後の沖館（大正11年発行「実地踏査 青森新市街図」に加筆 歴史資料室蔵）



写真② 青森工業高校（昭和20年代後半 『復興した 新しい青森』より転載）

年から昭和11年まで局長を務め、青森ヒバの利用促進活動を積極的に行う一方、職場におけるスポーツの振興にも尽力しました。青森営林局には野球チーム・青森林友野球部があり、球場の建設はチームの発展に繋がるものとして期待されていたようです。

青森球場は全国中等学校優勝野球大会の予選や都市対抗野球など様々な試合に利用されました。また、沖館尋常小学校の運動会の会場として使われたこともあ

るそうです【写真①】。

しかし、戦後に土地は売却され、営林局の官舎が建設されました。現在、東北森林管理局新田宿舎の前には球場があつ

たことを示す記念碑と解説板が設置されています。

青森工業高校篠田校舎

県立青森工業高校は平成23年（2011）に馬屋尻の新校舎へ移転しましたが、昭和6年（1931）から平成23年までの80年間は篠田にありました。

青森工業高校は大正2年（1913）、市立工業徒弟学校として箕町に開校し、大正6年に市立工芸学校と改称、大正13年には橋本へ移転しました。そして、昭和6年に沖館字篠田（現篠田三丁目）へと移転するのですが、この移転には市立

実科高等女学校（現県立青森中央高校）が関係していました。というのは、独立校舎を持っていなかった実科高等女学校が工芸学校の校舎を使うことになり、そこで、工芸学校は別の場所に移転することになったのです。移転先に造道尋常小学校（現造道小学校）の校舎を利用する案も出されましたが、検討の結果、篠田に新校舎を建設することが決まりました。

工芸学校の建設と同じ時期、沖館では沖館尋常小学校の校舎建設も進められていました。沖館尋常小学校は昭和4年に火災で校舎を失い、青森営林局やその向かい側にあつた私立昭和女学校（油川出身の柿崎平蔵が昭和3年に開校した学校

で、昭和5年に浦町へ移転しました）などを間借りして授業を行っていました。そして、昭和6年に校舎を再建することが決まり、工芸学校と同じ業者によって工事が進められ、ともに昭和6年10月28日に落成式を行いました。そして、ふたつの校舎は戦災を免れ、昭和40年代まで使われました【写真②】。なお、工芸学校は昭和13年に市から県へ移管され、昭和23年に現在の校名となりました。

現在、青森工業高校の跡地は住宅地として生まれ変わろうとしています。校舎跡地にできた新しい住宅地の一角には旧校舎の前庭を利用して公園が整備され、「学舎跡地記念碑」がこの地に工業高校があつたということを伝えていきます。

（市民図書館歴史資料室嘱託員 村上亜弥）